

未来の長浜市を創造するまちづくり委員会

産業分科会 議事録

日時	平成21年 6月29日(月) 18:00 ~ 19:30		
場所	長浜市役所 別館4階第3会議室		
議題	観光交流産業の振興について		
出席者	分科会委員 *敬称略 吉川富雄、村上宣雄、伊藤兵一郎、吉田豊、塚田益司 嶋崎善弘、森田義人、松本長治、稲田司		
市	観光振興課 今井克美	分科会事務局(商工振興課)	大塚義之、小谷勝也
6町	なし		
傍聴者	あり(人) (なし)	報道機関	あり() (なし)

【協議結果】

- ① テーマ “観光交流産業の振興について” のまとめ
 - ・副読本を作製するなど、市民に新市の観光素材や魅力について、情報発信を行う。
 - ・観光団体のネットワークを構築しつつ、一元化を図る。
 - ・地域リーダー(地域応援団)を育成し、リーダーを中心に地域の活性化を図る。
 - ・交通ネットワークを構築するなど、観光地を点から面とする取り組みを行う。
 - ・社寺仏閣と連携を図るなど、新しい観光施策の検討を行う。

- ② 次回日程とテーマ
 - ・次回日程 7月23日(木) 18:00~
 - ・次回開催場所 「長浜市役所本館3階第1会議室」
 - ・次回テーマ 「次世代成長産業の振興について」

- ③ その他

【主な意見】(要点列記)

- A委員 開会する前に委員各位にこの会のあり方を確認させていただく。この会は、市民の目線で新しい長浜市に対する期待や夢を発言する場であり、現在の施策の批判を述べるものでない。私たちの意見を提言として取りまとめ新市の施策に生かしてもらいたい。今回のテーマは観光交流産業の振興。まず、市の担当課から観光施策等について説明いただき、その後、みなさんのご意見をお聞かせいただきたい。
- 担当課 観光の現状と今後の取り組みについて説明。
- A委員 2011年の大河ドラマが“江～姫たちの戦国～”に決定した。合併後の新市の一体感を醸成するには絶好の機会。ドラマが終了しても、多くの人が訪れていただけるような取り組みを期待している。それではみなさんのご意見をお聞かせください。

B委員	新しい市域には、各地域に観光協会があり、その他湖北観光連盟やびわ湖近江路観光圏、奥びわ湖観光連盟、湖北エコミュージアム推進協議会といったように様々な組織が存在する。現在は、チラシ等もバラバラで作製しているが、うまくネットワークが組めれば良いと思う。
担当課	合併後は湖北観光連盟が中心となり、パンフレット等の統一化を図っていきたい。観光協会の統合は、民間の話でもあり今後の検討事項となる。
C委員	新市域には地域に根づいたお祭り等すばらしい素材がたくさんある。それを効果的にPRができ、さらに交通ネットワークが構築できるような組織体制の構築を期待している。個々の地域にはない魅力を集約することで、相乗効果が期待できる。
D委員	合併後は、旧長浜市が中心となり他地域の意見を取り入れていくのか、中央集権的に事業を実施していくのかどちらになるのか。
担当課	前者と考えている。
D委員	イベントはこれまでどおりそれぞれの地域がやるとして、新市には効果的なPRをお願いしたい。湖北町の「水とロマンの体験」と高月町の「ふるさとまつり」が連携してPR等を行っておられるが、合併後もこれらの取り組みが持続するシステムづくりをお願いしたい。
E委員	観光客の誘致に観光事業者だけが関わるだけでは、広がりは生まれない。黒壁がなぜ成功したのか。住んでいるまちに人が訪れることがうれしくなり、市民がいろんなところでPRしたため。合併後も市民のエネルギーで観光客を呼べるような取り組みを期待している。2011年の大河ドラマは当地が舞台となるが、歴史を知らないでPRもできない。地域を知り、郷土への愛着心を高めるためにも、市民向けに歴史教育等を行うと一過性の事業とはならず、その後につながると思う。
F委員	現在民宿を経営しているが、お客さんと話していると、高月の観音さんを見て、金沢へ行かれるなど、それぞれのニーズに応じピンポイントで観光されていることに気づかされる。この地域に引き止め、滞在してもらおうというよりも、日帰りでもよいので一旦この地域に来ていただくきっかけづくりが大切である。観光とは地域のブランド化。それが今後そこに住んでみたいにつながる。最終的な目標は定住人口を増やすことで、観光は地域のファンを増やすその1歩と考える。
D委員	最近水鳥ステーションへの来訪者が増えている。そのきっかけとなったのが、営業日を無休にしたためと聞いている。いつ行っても開いているという安心感も必要。
E委員	先日長野県の安曇野に行った。そこは小さい美術館が点在し、地域の人が案内をしてくれる。観光地に訪れて一番うれしいのが、地域のおばあちゃん等、そこに住む人たちとの触れ合い。ボランティアガイドもその一つの例。

- G委員 まず新市の魅力がどんなものかを市民に情報発信し、そして県外へとPRしていく。施設等箱物を造るだけではだめ。自分の地域をよく知る、人を育てることが大切。見る・触れる・話す、人と人の交わりを大切にした取り組みを期待する。人を育てることにお金を費やしてほしい。
- B委員 施設の休館日については統一するなど、よいシステムを考えないといけない。現在、ウォーキングがブームとなっている。地域の人たちと触れ合いながらウォーキングしていただける取り組みをするとリピーターも増える。ウォーキングブームにのり、それぞれの良さを生かした取り組みを期待する。ホームページも統一化も重要。
- E委員 京都の仏教会は観光にも力を入れている。この地域でもお寺めぐり等、仏教会とタイアップした取り組みをしてはどうか。
- F委員 私のまちの十一面観音が、合併の年に御開帳を迎える。仏像の盗難事件が多発しており、PR方法を苦慮している。
- E委員 観音さんだけをPRするのではなく、観音さんと地域のつながりも一緒に紹介すると地域のPRにつながる。現在、京都大学が長浜を舞台に風雅のまちづくりを進めておられるが、それは京都の文化が中心部から消えつつあり、周辺部には色濃く残っている地域もあるため、その調査をされていると聞いている。新長浜市でも周辺部の方がすばらしい魅力が残っているのではないかと思う。
- D委員 それぞれの地域の時代絵巻を展示したり、モニュメントを設置してもおもしろい。
- E委員 昔、郷土長浜という副読本があった。地域の歴史本を作り、子どもころから勉強してもらうことが、しいては郷土に誇りを持ってもらうことにつながると思う。
- H委員 小学校の子どもに学校区以外の本を紹介しても難しいのでは。ある程度範囲を絞った方がよいのでは。
- B委員 アウトラインぐらいでもわかるものがあると。
- F委員 賛成。最低限のことは市民も知らなければ。これは、い・ろ・は“い”。ぜひ作っていただきたい。
- D委員 昔この土地は川だった、草原だったといったことだけでも楽しめるもの。
- C委員 長浜には曳山まつりがあるが、昔は他の地域から曳き手が応援に来ていたことがあった。伝統文化等で地域を繋げていくことも必要。
- I委員 最優先すべきことは、そこに住む人が地域のことを知ること。インターネットで検索すると、各地域のまつり等について、訪れた人がその評価をされている。その評価を見て来訪者が増える。人が人を呼ぶ。いきなり新市を対外的にPRしても効果は薄い。まずは地域の人が自分のまちのことを知り、ふるさと

をPRすること。黒壁が全国的に有名になったが、最近では観光客も落ち込んでいると聞く。その原因をつきとめると景気に左右されない観光地になるのではないか。

H委員 人を呼び寄せるには、大通寺・黒壁・桜の名所等の主体となるものがあり、その主体に応援団がついているものは成功している。例をいうと孤篷庵は地域の人たちが応援団となり、いろんな事業に関わることで成功している。観光の主体となるものに対し、地域の人たちが盛り上げる必要がある。それをネットワーク化する。合併すると各イベントの補助金が減るかもしれないが、地域の応援団がカバーする仕組みづくりが必要。

A委員 “観光団体の一本化を図りながら、ネットワークの構築を進める”、“地域リーダーを育て、リーダーを中心に地域の活性化を図る”、“新市の歴史・魅力を知っていただくのはまずは市民から”、“ふるさとの魅力を語る市民を作るために、副読本等の作製を”、“観光地を点から面につなげるために、各施設で周辺の観光地の紹介と、交通ネットワークの構築を”、“地域の魅力を伝えるには人と人の交わりが必要、その取り組みを”、“社寺仏閣と観光の関わりを検討を”、“史跡名勝をささえる、地域応援団の醸成を”、といったご意見を今回のテーマの提言としてまとめさせていただく。